

薄紫の夢

森野 水琴

あの日の男との逢瀬の夢を女は見ている。夢が赤みの薄紫に染まっていく。目が覚めて、女は男に逢いたくて逢いたくて、時の女神に祈りを捧げる。

そのうち女は夢か現^{うつ}か分からなくなり頬をつまみ、現だと知り切なく高まる。時の女神に祈りながら、夢が青みの薄紫に染まっていく。